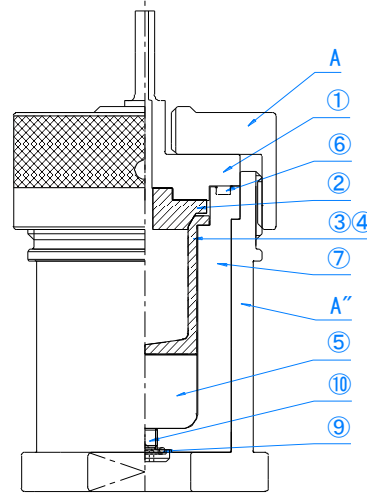


ノズル型ステンレス製内筒「HRNS-70/-100」取扱説明書

この度は三愛科学(株)製反応分解容器シリーズをお買い求め頂き誠にありがとうございます。
本製品は取り扱いを誤ると正しい検査結果を得られないばかりか、火傷などの傷害を負うことがあり非常に危険です。
ご使用の際は、この取扱説明書を携行し、取り扱い方法を習熟してご使用下さい。
またお手元に必ず保管下さいませようお願いします。



■使用方法

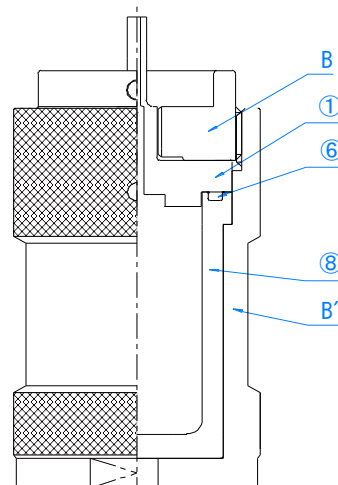
- ・AA''(HUS-100)、BB''(RDVS-100)の取扱いは、別途、専用取扱説明書をご覧ください。
- ・本取扱説明書中の部品番号は部品展開図と連動しております。

セット方法

- ・⑦に⑨がしっかりねじ込まれているか確認して下さい。
- ・試料の入った③(④)または⑦(⑧)と各部品を右図のように設置して行きます。

締め付け方法

- ・A''(B'')の底部をバイス(別売)に固定します。
- ・A(B)の横穴にピンレンチを差し込み締め付けを開始します。
- ・Oリング方式のため、レンチの締め付け角度が約30°付近においてそれ以上レンチが動かなければ締め付け終了です。
- ※締め付け過ぎはシール溝端面を变形させる恐れがありますのでご注意ください。



開封方法

- ・A''(B'')の底部をバイス(別売)に固定し、ピンレンチ(別売)にてA(B)を外して下さい。
- ※保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用して下さい。
- ※容器温度が充分下がっていることを確認し開封作業を行って下さい。
- ※開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
- ※内圧が残っている場合は試料が吹出す危険があります。

使用上の注意

- ②と③(④)は完全に密封されず、⑦内に試料が漏れ出す場合があります。
- ③(④)は冷却時、減圧により側面が変形する場合があります。

■注意・警告・厳守事項(破裂、火傷の恐れ有り！)

容器内の異常な圧力上昇は容器の破裂や酸の噴出を引き起こし、重大な事故につながる恐れがあります！



- 最高使用温度: O-3F90S→200°C (②③④設置可能)
: O-FFH90S→230°C (②③④設置可能)
: O-FFH90S→270°C (②③④設置不可)
: O-S2S→290°C (②③④設置不可) ※O-S2SはHRNS-100のみ設定あり
- 最高使用圧力: 10MPa ※O-S2Sは8MPa
- 試料は乾燥重量で500mg程度に留めて下さい。※試料、酸共に少量から試みて下さい。
- 本容器は有機物の反応・分解には特に注意が必要です。
有機物を含む試料を取り扱う場合は、必ず予備分解してから行って下さい。
- 反応ガスが多量に発生すると予測される実験も、必ず予備分解を行って下さい。
予備分解: 換気の良い場所で予め試料と酸を解放下で反応させ、脱ガスまたは灰化させる。
- 熱風循環式オープンで本容器を加熱する場合、熱風吹き出し口付近に置かないで下さい。
- 何らかの原因で本容器から漏れ出した試料に引火する恐れがあります。
加熱には防爆型機器の使用をお勧めします。
- 過塩素酸の使用は控えるか、極少量に留めて下さい。
- 火薬類など爆発性試料は絶対に入れないで下さい。
- 加熱開始時は周囲に注意を促して下さい。
- 容器温度が下がっている場合でも内圧が残っており、開封時にガスが噴出する恐れがあります。
保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用し、換気の良い場所で行って下さい。
- 開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
- SUS部品の先端部は鋭くなっています。切傷等に充分ご注意下さい。
- 無断で修理、改造をしないで下さい。
- 三愛科学(株)製以外の部品は使用しないで下さい。
- 万が一、SUS外筒又はSUS部品が膨張による変形、あるいは亀裂などの異常を生じた場合は無理に開封せず、弊社までご一報ください。

 **三愛科学株式会社**

〒462-0034 愛知県名古屋市北区天道町5-5-3

TEL (052)915-2621 FAX (052)915-2622

info@sanai-kagaku.co.jp

<https://www.sanai-kagaku.co.jp>

2022/11改訂